



# YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第3号 令和元年9月27日発行

## 第2回学校運営協議会 開催

9月4日（水）、ゆり支援学校で第2回学校運営協議会が開催されました。今回は学校運営協議会委員だけでなく、地域関係者と保護者、卒業生の保護者にも参加していただき、熟議を行いました。生涯学習センター職員のコーディネートの下、意見を深めることができました。熟議は1グループ4人ほど、計6つのグループで行われました。ラウンド1から3まで3回グループのメンバーを変えて話し合いをしました。そして、この日、心に残った一言を付箋に記入して終えました。委員や地域の関係者、保護者などと目指す生徒像を共有し、おかげさまで有意義な機会となりました。

熟議テーマ 「ゆり支援学校の子どもたちがどのように育ててほしいか」。

### 1 熟議の様子と内容

#### (1) 基本的な生活習慣を身に付けてほしい。

- ①あいさつ、返事ができる子ども（Cグループ全員）
- ②何をすることも基本的な生活習慣ができていなければ、働くことや余暇時間を充実させることができない。何事にもつながる。したがって、基本的な生活習慣ができている子ども。（卒業生保護者）
- ③就労（福祉的就労も含む）は健康第一。心身の健康が基本となって、生活する力や人との関わり、様々な就業活動につながっている。ここが肝心である。（由利本荘市福祉課、遠藤さん 水林新生園施設長、尾留川さん 他多数）  
心も体も健康な子ども（小学部教職員）
- ④元気な子どもはとても良い。（障がい者支援事業「逢い」サービス管理者）
- ⑤周囲を元気にする力のある子ども。
- ⑥笑顔が多い子ども（由利本荘市教育委員会、佐藤さん）
- ⑦食育や食事のマナー、言葉遣いについては、在学中に身に付けてほしい。マナーが身につけていて、言葉遣いが丁寧な子ども。（障がい者支援事業「逢い」サービス管理者）
- ⑧体や口の中を清潔に保ってほしい。清潔・衛生面で自立している子ども（障がい者支援事業「逢い」サービス管理者、小学部教職員）
- ⑨しなやかさを大切に。しなやかな心をもつ子どもに。（障がい者支援事業「逢い」サービス管理者）
- ⑩失敗しても頑張ろうとする気持ちをもってほしい。（高等部教職員）
- ⑪好きなことを見つけてほしい。（高等部教職員）
- ⑫相談できる子ども（グループ変更後の委員の方々）
- ⑬自力で行きたいところに行ける、移動能力がある子ども。（グループ変更後の委員の方々）
- ⑭がまんできる子ども（グループ変更後の委員の方々）

## (2) 人や地域と関わってほしい。また、地域の障害者（児）理解がほしい。

- ①子どもには、いろいろな体験をさせたい。経験の幅を広げさせたい。(高等部生保護者)
- ②人に認めてもらう経験や人から「ありがとう」と感謝される経験を積んでほしい。(在校生保護者)
- ③子ども自身が“楽しい”と思える人生を送ってほしい。(在校生保護者)
- ④仲間がいると実感できる生活が大事である。(小学部教職員)
- ⑤人と交流してほしい。(障がい者支援事業「逢い」サービス管理者)
- ⑥余暇を楽しんでほしい。(障がい者支援事業「逢い」サービス管理者)
- ⑦自分以外の人にも関心を持ってほしい。(高等部教職員)
- ⑧自分でも人を支えられる人になってほしい。(グループ変更後の委員の方々)
- ⑨地域の障害者（児）理解が進んでほしい。(小学部生保護者)
- ⑩居住地域の行事に参加してほしい。(在校生保護者)
- ⑪地域行事はハードルが高いこともある。障害者同士の仲間づくりも大切である。(由利本荘市福祉支援課、遠藤さん)
- ⑫支援者側の障害者理解 (由利本荘市福祉支援課、遠藤さん 卒業生保護者)
- ⑬自立とは、支援者が変わると思う。
- ⑭保護者の中には、自分の子どもを地域の催しに出さずに一人で悩んでいる保護者が多い。保護者同士のつながりが必要だと思う。保護者が集まっていろいろな話ができる場所があればよい。(小学部生保護者)
- ⑮本校の卒業生で私（委員）自分の家に遊びに来てくれる男子がいる。家に上がってお茶を飲んだり話をしたりして行く。少し立ち寄っておしゃべりする時間や場所は大切だと思う。(安倍委員長)

## (3) その他の要望

- ①就労の観点では、離職してからの相談が多い。離職前の困った段階で相談してほしい。(本荘公共職業安定所所長、西村さん)
- ②スマホの利用によるトラブル多いので、スマホの上手な使い方を覚えてほしい。(障がい者支援事業「逢い」サービス管理者)
- ③自立とは、支援者が変わると思う。(安倍委員長)





## 2 今回の熟議で心に残った一言

参加者の皆さんから、熟議を終えて印象に残っている言葉を付箋に書いていただきました。たくさん話し合われた中で、最も心に残った言葉、これを各委員や地域、保護者の方々に持ち帰っていただき、各職場・地域で何か障害者（児）理解のためにできるかを考え、取り組んでほしいと思います。生涯学習センターの職員の方は次のように言っていました。「各委員、地域の方々の立場や役職等は当然違い、同じことはできません。しかし、学校運営協議会を登山にたとえると登るルートは違うものの、目指すところは同じ。目標とする子ども像を皆で共有できたことが重要である」とのことでした。

**明、笑**～幸せと思える、笑顔（２）、明るいあいさつができる子、素直  
**しなやかな心**～しなやか（２）、認める＝自信、自己肯定感、心の成長、必要  
**つながり**～人が好き、伝える、人とのつながり（２）、仲間づくり（２）、誰かと打ち込めるものがある。  
**支え、自立**～地域に出る（地域と関わる）（２）、互いに支え合う地域力、地域の人と一  
 支えてもらう立場から支える立場へ、自立とは、支援者が関わっていくこと、  
 支え（支えられる存在、支える存在）、引きこもらない。  
**生活**～生活リズム（食事、睡眠、活動）、余暇の充実

